

はにつちII

はにつち セカンド

令和4年10月号－2 加東市立社中学校 学校だより 文責：学校長

第67回加東市中学校新人体育大会、1・2年生大健闘！

加東市中学校新人体育大会が、天候不順により9月23日(金)と24日(土)の2日間にわたって開催されました。大会前に行われた壮行会での、各部キャプテンの決意表明通り、それぞれの部活動で、夏の総体以降、新チームとして積み重ねてきた練習の成果を発揮できた大会であったと思います。東播大会への出場権を得た部も、そうでなかった部も、この大会を通じて新たに気付いた課題を克服し、チームや自分自身を成長させられるよう取り組んでいきましょう。

【加東市中学校新人体育大会】主な結果

＜軟式野球＞優勝 ＜サッカー＞準優勝 ＜男子ソフトテニス＞団体：優勝 個人：1位 組 2位
組 ＜女子ソフトテニス＞団体：準優勝 個人：2位 組 3位
組 ＜男子バレーボール＞優勝 ＜女子バレーボール＞優勝
＜男子バスケットボール＞準優勝 ＜女子バスケットボール＞優勝
＜男子卓球＞個人：1位 2位 3位
＜女子卓球＞団体：2位

【東播地区中学校新人陸上大会】主な結果（入賞県大会出場分）

＜走り高跳び＞3位	＜走り幅跳び＞2位	8位	＜400m＞6位
＜100mR＞4位			＜2年 100m＞7位
＜走り幅跳び＞4位	＜走り高跳び＞8位		＜1年 800m＞5位
＜100mH＞4位	＜4×100mR＞4位		

（※以上、敬称略）



吹奏楽部第54回定期演奏会を開催

10月2日(日)、恒例の定期演奏会が開催されました。昨年同様コロナ禍が収束しない状況ではありますが、感染防止対策を講じながら会場として使用させていただいた「やしる国際学習塾LOCホール」の環境を考慮し、来場制限を少し緩和しての開催となりました。夏季休業中の厳しい暑さや2学期に入っすぐに開催された体育大会など、容易でない条件下での活動にもかかわらず、日々の練習を重ねてきたその集大成の演奏が披露されました。思いのこもった素晴らしい演奏に、聞いている私たちの心が癒される思いでした。



令和4年度全国学力学習状況調査結果よい

新年度に入って間もない4月19日(火)、全国の中学校3年生を対象とした全国学力学習状況調査が実施されました。全国や兵庫県の結果については、すでに新聞等マスコミ

を通じて発表されているところですが、本校については、国語、数学、理科の3教科とも国・県平均の正答率に比べてやや低いという結果でした。

本調査結果のみで生徒の学力を推し量ることは適切ではないと考えます。しかし、本調査結果を真摯に受け止め、分析した上で改善策を講じることは重要です。そこで、国語、数学、理科の各担当教員により結果を考察し、今後の対策案をまとめ、全教職員で共通理解を図りました。

【国語】

- 「情報の扱い方に関する事項」について、各教科でタブレット等を活用し、資料の読み取りや発表スライド作成などを日常的に行っている成果が表れている。
- 「書くこと」について、普段の授業において文章の推敲や条件付きの文章を書くことに取り組んでいる成果が表れている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、語句の意味や用法に関する知識が不足している。書写に関する設問の正答率も低く、文字の書き方や書写教育にも力を入れる必要がある。
- 「読むこと」について、無解答率が全国と比べ高く、正答率にも課題があった。問題文を正しく読み取り、条件に合った解答に導けるよう物語文や説明文において、文章の構成や展開に着目させて読ませたり、読み取った内容をまとめて書く活動につなげたりする学習に取り組ませる。

【数学】

- 知識及び技能の「数と式」について、授業内で素数とはどのような数かを自分たちで見つけさせ、考えさせる活動に取り組んだことが効果的であった。
- 一方で、思考・判断・表現の「数と式」については、全国と比べて課題がある。無解答率も高く、文章から読み取る力を身に付けさせる必要がある。具体例から抽象的な問いへつなげていく学習や問題の条件や仮定を変更した類題を解く学習を積み重ねていく。
- 「データの活用」について、タブレットを活用した授業に取り組んだことで、より理解が深まったと考える。
- 知識及び技能の「関数」について、全国と比べ課題がある。特に数学的用語の理解が乏しいと考えられる。また、式・表・グラフ等の見方を日常生活と関連付けながら、繰り返し確認していくことが必要である。

【理科】

- 「短答式」の問題形成については、図を読み取る力が身に付いていると考えられる。
- 一方で、「生命」を柱とする領域について、特に課題が見られたが、無解答率も比較的高く、要因の一つとして「記述式」であったことが考えられる。授業やテストにおいても選択形式や短答形式での問いを少なくし、「文で考える」「文で答える」という機会を多く取り入れていく。

また、生徒質問紙の回答結果からは、次のようなことが考察されました。

- 全質問 68 項目中、56 項目で国・県平均に比べて肯定的回答があった。特に、タブレット等 ICT 活用、主体的・対話的で深い学びに関する質問項目での肯定的回答が多く、これまでの協同学習や授業改善の取り組みの成果が表れていると考えられる。
- 「数学の勉強は好きですか」「理科の勉強は好きですか」という項目は国・県平均をやや下回っている一方で、3教科とも「授業の内容はよくわかる」「学習することは大切である」「学習したことは将来役立つ」と考えている生徒は多い。また、記述式問題に解答しなかったと答えた生徒も比較的多く、より一層各教科の特性に応じた面白さを感じさせつつ、「書く力」「読み取る力」を身に付けさせ、さらに学習内容の定着を図る学習指導の工夫が必要である。
- 生活習慣や学習習慣、自己有用感や規範意識にかかる質問項目には、いずれも肯定的回答が多く、地域の行事への参加等地域とのかかわりに関する肯定的回答も比較的多い。今後も学校、家庭、地域が連携して生徒の成長を支援していくことが重要である。